

2013 年度教育学研究室及び教職研究室活動報告（湘南校舎）

1. 研究室の活動

2013 年度の主な活動は以下の通りである。

日程	名称	備考
4 月 4 日（木）	教職課程ガイダンス	4 月 5 日（金）伊勢原校舎
	社会教育主事ガイダンス	
	教育実習委員会	
4 月 5 日（金）	履修指導・相談日	
4 月 6 日（土）		
4 月 16 日（火）	教育実習事前指導 A ガイダンス	5 月 10 日（金）補充
4 月 17 日（水）		6 月 4 日（月）・18 日（火）特別補充
4 月 24 日（水）	履修カルテガイダンス	5 月 10 日（金）補充
	編転入生教職基礎学力テスト	
5 月 29 日（水）	教育実習事前指導 B	6 月 20 日（木）補充
7 月 11 日（木）	教職教養講座	テーマ「いじめ対応の実際：公立中学校における実践と課題」
7 月 16 日（火）	教育実習報告会（協定校）	
7 月 24 日（水）	教育実習事前指導 A 集中講義	9 月 19 日（木） 補充 10 月 14 日（月）特別補充
9 月 19 日（木）	履修指導・相談日	
	秋学期教職課程ガイダンス	
11 月 13 日（水）	教職教養講座	テーマ：「コミュニケーションスキル：グループワークでの実践」
11 月 20 日（水）	教職課程運営委員会	
11 月 26 日（火）	教育実習事前指導 C ガイダンス	12 月 19 日（木）補充
11 月 27 日（水）		1 月 20 日（月）特別補充
1 月 22 日（水）	教育実習事前指導 C 集中講義	2 月 4 日（火）補充
2 月 3 日（月）	学習ボランティア報告会	
3 月 4 日（火）	全体会議	

春学期のはじめに、新入生を主な対象とした教職課程ガイダンスと 3 年次生を対象とした教育実習事前指導 A ガイダンスを実施した。教職課程ガイダンスには 1500 名程度の新入生が出席したと思われる。また、一昨年度から実施している履修カルテガイダンスを 4 月 24 日に行った。しかし、履修カルテが、まだ十分に認知されていないためか、欠席者が大勢おり、その者たちのために、度々個別指導を行った。今後については、早期に教職課程の登録制を実施し、履修カルテガイダンスの日程等、必要な情報が必要な学生に行き届きやすくする計画である。続いて 5 月 29 日に事前指導 B を行った。昨年度より、事前指導 B については、特別支援教育の理念や理論、また教育現場の実際を講義する内容に変更し、2 名の専門家を招聘して実施した。6 月については、その他に、平塚市と秦野市の協定中学校及び関東地方に所在する東海大学付属中学校・高等学校について、各教員が分担して教育実習の訪問指導を行った。7 月には、3 年次生を対象に、事前指導 A（集中講義）を実施した。内容は、神奈川県中教育事務所の山川勝久所長をお呼びし、教育実習生を受け入れる立場から、教育実習全般に関するアドバイスや、教員養成に関する提案等を頂戴した（詳細は本報告の末尾に記載する）。その後、「教職ポー

トフォリオ B」の解説と演習を行った。

秋学期には、3 年次生を対象として、教育実習の直前指導を内容とする事前指導 C ガイダンスを 11 月下旬に実施したほか、1 月には事前指導 C 集中講義を行った。事前指導 C 集中講義の内容は、教育実習を経験した 4 年生 15 名と教育学研究室所属教員 3 名がパネラーとなり、シンポジウム（「教育実習報告会」）を行い、その後、秦野・平塚・相模原市教育委員会より指導主事の先生を講師としてお招きし、各教科の学習指導案（主に中学校用）・単元指導計画の解説を行った。これをもって本年度の教育実習事前指導がすべて終了した。

なお、湘南校舎において行われた本年度の「教職基礎学力テスト」（1 年次生を対象）については、春学期には、文学部、教養学部 1 学科、政治経済学部、理学部の教職論履修学生と前年度までの不合格者および未受験者を含めた 389（前年度春学期 534）名が受験した。秋学期には教養部部の残りの学科、法学部、体育学部、工学部、電子情報学部の教職論履修学生と前回の不合格者の 491（前年度秋学期 499）名が受験した。総受験者は 880 名であり、前年度（受験者数：1033 名）より減少した。

また、年度の始めに、一部の自治体（川崎市・埼玉県・相模原・横浜市・京都府・京都市・大阪府・堺市）から依頼を受けた「教員採用候補者大学推薦選考（数学・理科・国語・工業）」の学内選考を行い、川崎市へ 1 名（数学）、横浜市へ 3 名（数学 2 名、理科 1 名）を推薦し、その結果、横浜市で 3 名（数学 2 名、理科 1 名）が教諭として正式に採用された。

最後に、近年、近隣自治体を中心に、いわゆる「学校ボランティア」の依頼が増加している。課程資格教育センター教育学研究室及び教職研究室では、各種ガイダンスや事前指導において学生たちに周知し、活動への参加を推奨し、また学生への事前指導等を実施している。特筆するべきものとして、5 月 1 日に秦野市（秦野市教育委員会）と教科学習支援員派遣事業に関する覚書を締結し、総計で約 50 名の学生を教科学習支援員として秦野市内の各小学校及び中学校に派遣した。本事業については、参加学生のみならず、各小・中学校から高い評価が寄せられており、今後も発展的に継続していく計画である。

2. 研究室の教員

本年度の専任及び特任教員と授業担当は以下のとおりである。なお、教育実習 1・2 についてはすべての教員が担当した。

教員名	主要担当科目	所属
平野 眞	教育心理学、学習指導論、教育相談	教育学研究室
朝倉 徹	教育心理学、学習指導論、視聴覚教育、英語・美術・保健体育科教育法特論、教職基礎演習 B	教育学研究室
大島 宏	教育原理、教育制度論、道德教育論	教育学研究室
菅井 保（特任）	教育原理、教育制度論、道德教育論	教育学研究室
稲垣 智則（特任）	教育心理学、学習指導論、教育相談	教育学研究室
佐藤 徹（特任）	社会科教材論、社会科・公民科教育法 1・2	教職研究室
鈴木 正行（特任）	教職論、生徒指導論、特別活動論	教職研究室
堀 英雄（特任）	教職論、生徒指導論、特別活動論	教職研究室
永井 博（特任）	教職論、生徒指導論、特別活動論	教職研究室
山崎奈々絵（特任）	教職論及び教育実習事前指導の補助	教職研究室

（朝倉 徹）

教育実習生に望むこと

～良い生徒指導は生徒理解から～

山川勝久

1 はじめに

私は、東海大学4年生の時に、同級生の「教育実習はとっても楽しかったよ。」という一言で、教員になろうと決心した。本日はみなさんに先輩として、そして将来は教員になってほしいという願いを込めて話をしたい。

2 まだ見ぬ生徒たちと出会う前に…

みなさんは、教育実習に行ったその日からいきなり先生と呼ばれる。例えば、先ほど入り口でみなさんのレジュメを受け取る姿を見て、教員に向かない人もいるのかなと感じた。やっぱり、資料をもらう時は一礼しましょう。生徒はそういうところもよく見ている。

- (1) 言葉の使い方、表情、服装、態度は「先生」として、ふさわしいのか？教育実習時の第一印象は、とても大切である。生徒は見た瞬間の表情で、どんな先生かを敏感に感じとっている。
- (2) どんな生徒に育てたいか？どんなクラスをつくりたいか？どんな先生になりたいか？を考えておこう。
- (3) 実習中の生徒との接し方次第では、授業中になれなれしくなり、はじめがつかなくなってしまう場合もある。これは多くの教育実習生が陥りやすい部分である。生徒との接し方や微妙な間の取り方は、とても難しいが、大切なことである。
- (4) 教育実習中は、たくさんのミスをすると思う。私もこれまで生徒や保護者にたくさんの迷惑をかけてきた。ミスや思い違いは誰にでもある。間違えたときは、先生でも素直に謝る方がうまくいくし、気分も楽である。
- (5) また、自分では、気づかないこともある。私も授業中に「ね」を36回言ったと生徒から言われ、びっくりしたことがある。生徒は敏感、自分は鈍感、同僚は遠慮して言わないものである。また、先生の評判はすべて生徒を通して親に伝わる。逆に考えると生徒を通して、良いことやアピールも親に伝わっていく。

3 教育者（教育を行う者）として必要な能力や資質

- (1) 学習指導も生徒指導も基本は、生徒理解である。生徒を理解することは、なかなか奥が深い。
- (2) 中学生107人が答えた「信頼できる先生とは？」

今から7年前、2年生107人と校長面接を行った。これまで印象に残る先生は？と全員に同じ質問をしたところ、小学校2・3・4年の頃の担任をあげた生徒が23.4%いた。その理由は共通しており「私のことをわかってくれた」という答えであった。また全員に共通していた回答は「優しくて厳しい先生」であった。

- (3) 心から納得したときに生徒の行動は変わる

以前、小学生30人に短距離走を指導した際、スタート練習時の「用意」の合図で3・4年生は何度注意し

でもスタートラインを踏んでしまった。5・6年は一度注意をすると次はラインを踏まない。私たちは、3年生から6年生までの全員を集めて「ラインの幅は5センチある。スタートラインの手前からゴールラインの手前までで丁度100Mあるんだよ。ラインを踏んだら99M95センチ走になっちゃうよね。」と説明した。その時、全員が「あーあー」と頷いた。心から納得してくれた瞬間だった。次のスタート練習からは、不思議なことに誰もラインを踏まなくなった。しかし、なぜ5・6年生は一度の注意で踏まなくなったのか？きっと納得したからではなく、怒られるからだと推測した。このことから授業でも生活指導でも、生徒が心から納得するような言葉かけが必要であると学んだ。

(4) 一流の教育者は、教育活動を常に修正し改善する能力に優れている

一流の人は、周りを見ながらそれに応じて修正できる。大リーグのダルビッシュ有投手は、試合中に投球時のリリースポイントなどを微調整しているそうだ。それと同様に授業中も生徒の様子を見て授業を微調整することが必要である。

(1) から (4) までをまとめると、生徒を理解しようとする努力と、生徒に理解させ納得させる努力と工夫が必要であり、自分の言葉で生徒が納得するように伝えられるのがプロの教育者である。生徒を理解するためには、生徒をみる目が大事。私が担任の時にずっと「生徒への誕生日のメッセージ」を送り続けてきた。ある時、メッセージを書こうとしたとき思い浮かばない。真面目で良い子なのに、ショックだった。自分は生徒をしっかり見ていなかったと反省した。それから生徒たちをじっくり観察するようになった。人は、見ようと思わないと見えないし、聴こうと思わないと頭の中に入ってこない。これは、良い生徒指導の基本である。

4 教育実習生としての自覚と準備

(1) 「学習指導力（授業力）」を身につけるために

- ①「なぜ勉強が必要か？」生徒から聞かれたら皆さんはどう答えますか？教壇に立つ前に必ず答えを考えておいてください。
- ②まずは学習環境を整え、板書は「大きく・正しく・丁寧に」を心がけ、書き順も練習しておこう。
- ③自分なりの授業（学習指導）のルール（規律）を生徒にしめそう。例えば、最初の挨拶はどうするのか、生徒が発表する時は挙手させるのか、それとも自由に発言させるのか等、授業の最初に生徒達に伝えておくことも大切です。そして、自分自身がまず教える内容に興味をもって授業の準備をし、自分も生徒と一緒に授業を楽しみましょう。

***教員は授業が命・・・良い授業が生徒・保護者からの信頼を生む！**

(2) 「生徒指導力（生徒育成力）」を身につけるために

- ①その「ルール」がなぜ必要か？自分が納得できることが大切で、それができて初めて指導ができる。
- ②意欲ある（やる気ある）生徒を育てるための教員の姿勢

オリンピックに出場した北島康介選手を育てた平井伯昌コーチ（現東洋大学法学部准教授兼東洋大学水泳部監督）は、「北島クラスの選手を、これまでたくさん見てきたが、今活躍していない理由はその選手のコーチにやる気がなかったから」と言っている。すなわち、教員にやる気がなければ生徒にやる気や意欲を持たせることはできない。

- ③「頑張れ！」という言葉の使い方もある意味では、最悪のアドバイスとなる。例えば数学や英語のテストができなかった生徒に対しては、何をどう頑張ればいいのかを気づかせ教えるのが教員の仕事である。
- ④他の教員との連携ができてこそ、より効果的な生徒指導が可能になる。
- ⑤生徒を育てるには、結果を急がず中長期的な展望をもって粘り強く取り組もう。

以前、校舎の周りでガムを90個拾った。6月に生徒総会の指導講評で、一言注意すると、一気に減った。しかし油断するとあっという間に増え、すぐ元に戻ってしまった。粘り強く継続した指導は大切である。

5 おわりに 学習指導も生徒指導も基本は生徒理解力を磨くことから

平成 25 年度、本校（平塚市立山城中学校）の重点目標は「見つける・見つめる・見とどける」。この三つの視点で教育活動を展開している。教育とは「無限の理想へ向けての挑戦」であり、生徒指導も学習指導も基本は、生徒理解である。みなさんには、来年の教育実習が終わった後、「良かったなあ、楽しかったなあ」と思えるような充実した教育実習をしていただき、同時に心から先生になりたいと思ってくれれば私も嬉しい。みなさんの健闘を祈ります。

＊本講義時は平塚市立山城中学校校長職にあった。